

鶴見区区政会議 平成28年度第1回こども教育部会

1 日時

平成28年6月9日（木） 19時21分～20時24分

2 場所

鶴見区役所 2階 201会議室

3 出席者

（委員）

西岡部会長、真鍋副部会長、木本委員、寺田委員、前川委員、松原委員、
宮田委員

（区役所）

萩副区長、杉本地域活動支援課担当係長、日下保健福祉課担当係長、
田中こども・教育担当課長、丸井こども・教育担当課長代理、
貴田子育て支援担当課長代理

4 議題

（1）平成27年度鶴見区運営方針自己評価について

5 議事

開会 19時21分

○杉本地域活動支援課担当係長 それではただいまから、鶴見区区政会議 平成28年度第1回こども教育部会を開会いたします。

私、本日の司会を務めさせていただきます、地域活動支援課担当係長の杉本でございます。よろしくお願いします。

それでは早速ですが、これより議事進行を西岡部会長にお願いいたします。

部会長、よろしくお願いいたします。

○西岡部会長 皆さん、こんばんは。部会長の西岡です。

本日は、本年度初めてということで、どうかよろしくお願いいたします。

それではまず、議題１の平成２７年度鶴見区運営方針自己評価について、事務局から説明をお願いいたします。

○杉本地域活動支援課担当係長 ご説明いたします。平成２７年度の鶴見区運営方針の自己評価についてでございますが、この自己評価は、運営方針に記載の戦略と具体的取組につきまして、それぞれの目標の達成状況を点検し、有効性を評価することにより、必要な施策の改善、見直しを行い、次年度の運営方針や予算編成への反映を図ることを目的に行っております。

それでは、鶴見区で行いました自己評価の前に、本日お配りしております委員評価シートの説明をさせていただきます。

お手元にこちらの書類がありますでしょうか。これまで運営方針の評価につきましては、区役所が自己評価を行い、それに対して委員の皆様からご意見を伺っていましたが、今回は、ぜひ委員会の皆様から直接評価をいただきたいと考えております。つきましては、本日の部会での説明をお聞きいただいたうえで、この委員評価シートにより、委員の皆様方ご自身で具体的取組の評価を行っていただきたいと考えております。お忙しい皆様方には、いわば宿題をお願いするようなことで、大変恐縮ではございますが、何とぞご協力をお願いいたします。

次に、委員評価シートの記入の仕方を説明いたします。左の欄に、区としてめざす状態を記載しております。その右に、具体的取組として、平成２７年度中に実施した取組みを記載しております。それぞれの取組みについて、記入例にありますように、具体的取組がめざす状態の実現にとっても有効であったと思う場合は◎、やや有効であったと思う場合は○、有効、有効でなかったのどちらとも言えない場合は△、有効でなかったと思う場合は×を記入していただき、具体的取組に対するご意見がある場合は一番右の欄にご記入ください。なお、その取組みのことがよくわからなくて評価できない場合は、横線を入れておいてください。

評価は、部会の所管する経営課題を中心に、経営課題 1 から経営課題 6、全てのシートについて、わかる範囲でご記入いただければ結構です。お手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、提出期限ですが、お忙しい中申しわけございませんが 6 月末までとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それから、シートの右下に委員名というところがございます。それが各ページに書いているんですが、実際に記入いただくのは 1 ページ目だけで結構です。この書類を 6 月末までに 4 階の総務課までご提出いただくか、もしくはメールで送っていただくということになります。よろしくお願いいたします。

○田中こども・教育担当課長 メールの場合は、明日、メールをお聞きしております委員様方につきましては、こちらからメールでこの添付資料をつけてお送りいたしますので、ご返信いただければ結構です。ペーパーの方はご持参いただくことになります。

○杉本地域活動支援課担当係長 わかる範囲で結構ですので、よろしくお願いいたします。

次に、区役所が行った自己評価と 27 年度中に実施した具体的取組についてご説明いたします。

委員の皆様には、全ての課題の自己評価シートをお送りしていますが、本日は特に部会所管の課題につきまして、資料 2 の区運営方針自己評価説明シート、資料 3 の平成 27 年度鶴見区の主な取組みにより説明をさせていただきます。

○日下保健福祉課担当係長 資料 2 の経営課題 3 次世代育成に向けたまちづくりのうちの戦略 3-1 安心して子育てできる環境づくりの 1 について説明させていただきます。

まず、地域ぐるみで安心して子どもを生み、育てられる環境の整備が進んでいると感じる区民の割合を増やすことを一つの目的としております。

戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況につきまして、まずアウトカムとしましては2点挙げさせていただいております。平成29年度までに、子育て支援事業の利用者で満足していると答えた人の割合85%以上を維持するというのを一つ挙げております。これにつきましては、27年度の達成状況としまして91.7%。ちなみに26年度の数字としましては93%でございました。

次に、平成29年度までに、子育て世代で子育てに関する相談窓口の認知度の割合を75%以上ということを目指して、27年度の達成状況につきましては83%。26年度の数字としましては74%でございまして、アウトカムの達成状況に対する評価結果としましては、順調と考えております。

次に、具体的取組の目標達成状況というところでございます。3-1-1 子育て支援の充実ということで、取組内容としまして、関係機関等と連携し、待機児童の解消、子育て層の交流の場の設定及び児童虐待防止など子育て支援に取り組むといたしました。

主な取組実績としまして、「愛Loveこどもフェスタ」の開催を1回、昨年度は5月22日に区民センターで実施しまして、約860人の親子の皆さんにご参加いただきました。これにつきましては、経営課題3、横向きになった分をめぐっていただきまして、写真を入れさせていただいております。資料3の主な取組みの中の部分になっています。

○杉本地域活動支援課担当係長 16ページ、3-1-1になります。

○日下保健福祉課担当係長 こちらの左上がそのときの写真になります。

次に、「つるみっ子ルーム」の利用時間の延長を実施ということで、もともと「つるみっ子ルーム」の利用時間としましては、午前中が午前10時から12時まで、午後1時から4時までという設定でしてございましたけれども、時間を延長してほしいというご希望もございましたので、午前中を午前10時から12時15分まで、午後につきましては、1時から4時半までとさせていただくようにいたしました。

利用率につきましては98%でございました。そのときの部屋の状況といいますのが、先ほど見ていただいた写真の右側の写真になります。年間の利用者につきましては大体、6,200名ほどの皆さんにご利用いただいております。

次に、児童虐待防止の啓発活動を20回実施させていただきました。これにつきましては、主に区民まつりですとか、あるいは各地域で行われます防災訓練のときに行かせていただきまして、参加している皆様に資料等をお配りしながら啓発をさせていただきました。その他、児童虐待防止の学習会、講演会としまして、3回実施させていただきました。

次に、関係局との保育ニーズ検討会議を4回実施いたしました。保育環境の充実に向けた働きかけとしまして、24保育所に対して行いました。27年度におきましても保育所本園を1園、小規模保育事業所を1園開設させていただいております。また、先ほどの写真と同じページになりますけども、保育所の待機児童数、あと児童虐待の相談件数について表にさせていただいておりますので、参考にご覧いただきたいと思います。

戻っていただきまして、業績目標としましては、事業に参加しやすいと回答した区民の割合を60%以上にすることを目標としておりますが、27年度目標の達成状況としましては、84.4%の方に参加しやすいとご回答いただきました。評価結果としましては、目標達成ができていると考えております。また、前回までもそうなんですけれども、相談窓口の認知がまだまだできていないのではないかというご意見もいただいております。今日お手元に一緒に配らせていただいております、広報つるみの6月号ですが、中をめくっていただきまして、7ページ「子育て支援室ってご存じですか？」という形で、皆さんから受けております相談のことですとか、あるいは「つるみっ子ルーム」のこと、また、区役所が中心となって発行しております、すくすくカレンダーですとか子育てマップについてPRをさせていただきました。

以上でございます。

○杉本地域活動支援課担当係長 続きまして、資料２の４ページ、戦略３－２ こども青少年の健全育成です。資料３につきましては１７ページをご覧ください。

家庭、学校、地域住民が一体となって、社会性を身につけ、心身ともに健全に育つ青少年の割合を増やすということを目的としております。戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況は、青少年健全育成の取組みを、区民協働により進められていると感じている区民の割合を２９年度までに７０％以上ということでしたが、平成２７年度の達成状況は８２％でした。２６年度は７２％です。アウトカムの達成状況に対する評価結果は順調と捉えています。

また、具体的取組の目標達成状況につきまして、地域と連携した青少年の健全育成の取組内容ですが、歌やダンス等の活動をしている区内高校生や青少年グループに、日ごろの活動成果を発表する機会を提供するとともに、関係機関と連携した非行防止啓発活動等を実施するなど、青少年健全育成の取組みを推進することで、主な取組実績ですが、高校軽音ライブクリーンプロジェクトの開催が１回、こちらは２０校の高校に参加いただきました。それから鶴見区青少年カーニバルの開催、こちらは１０月１２日開催で、午前中がメチャハッピー祭、昼からは青少年カーニバルということになっています。それから鶴見区中学校総合文化祭の開催が１回、こちらは２月１３日に区内の５つの中学校に参加いただいた総合文化祭です。それから青少年健全育成鶴見区民大会の開催１回、こちらは区民センターで７月５日に開催しました。第一部としまして、寮美千子さんにお越しいただきましての講演と、第二部では青少年による活動発表、こちらは区内の３つの中学校の吹奏楽部による演奏をさせていただきました。それから「こども環境ととのえ隊」としまして、鶴見緑地公園内の夜間巡視ですが、こちらを１回させていただきました。業績目標は、青少年健全育成としての取組みとなっていると回答した参加者の割合６５％以上を目標としていまして、目標達成状況は９０％です。評価結果は、目標達成ということです。

それから次に、３－２－２ 世界にはばたく人材の育成ということで、資料３は１

8 ページになります。

こちらの取組内容ですが、将来のグローバル人材の育成に向け、子どもたちが英語に親しみ、外国に対する興味や関心を持つ機会を設けるということで、主な取組みとしまして、中学生英語スピーチコンテストを1回、こちらは区内の中学生を対象に、一次では書類審査をさせていただき、140名の応募がありました。鶴見ってこんなところというテーマで、日本語で400字程度での書類審査を実施し、それに通過しました二次審査ではスピーチコンテスト、実際に英語でスピーチをしていただいて、二次審査のほうで18名で開催させていただきました。

それから小学生の異文化交流。こちらは2月を除く6月から3月までで、9回実施しました。毎回、鶴見図書館の多目的室で開催し、各回約25名程度が参加されました。各回4年生から6年生までを対象としまして、テーマはいろんな国の異文化に触れるということで、さまざまな国の方からお話をいただきました。業績目標は、英語や外国に対する関心が高まったと回答した参加者の割合を60%としていましたが、目標達成状況は90%です。こちらでも目標達成したと考えております。

次に5ページです。資料3は19ページになります。3-2-3 学校と社会を結ぶということで、取組内容は、区内企業経営者、スポーツ選手の方々が持つ知識や経験談を、区内小・中・高校生に伝えてもらうということで、主な取組実績は、青少年「夢・未来」講座の開催を63回、22講座を開催しました。登録いただいている企業、実施した企業は、資料3に書かせていただいております。花き卸売市場への親子で施設見学、こちらは8月22日の夏休みに親子で参加できるということで、14組41人の参加をいただきました。それから中学校の職業講話への講師派遣、こちらは1回になっております。こちらの業績目標も、青少年の「夢・未来」講座の参加校は5校以上ということにしておりましたが、昨年度は参加校9校ということで、評価結果としては、目標達成できたと考えています。

以上です。

○西岡部会長 ありがとうございます。今の説明で意見等ございますでしょうか。

個人的には、達成率というか、数字のほうはかなり上がってるので、素晴らしいことだと思うんですが、これはやはり今までの努力といいますか、広報つるみを通してとか、いろんなことの評価が上がってきてるんじゃないかなと思われるところもあると思いますが、役所のほうは、どういうふうなお考えで数字が上がっているかというのを思ってもらえるかをお聞きしたいんですけども。要するに、目標評価よりかなり数字のほうが上がっているのに対して、いろんな広報的なことで数字も上がっているし、ずっと通じてきた事業ということで、周知もできているということもあると思うんですけども。

○田中こども・教育担当課長 各事業もそれぞれ、この間、何年かにわたってやってきてるものもありますので、そういう周知もだんだんとされてきているという部分と、事業にもよりますが、できる限り参加者の満足度が上がるような形で、区がさせてもらっているんですけど、まだまだ不十分なところがあるかもしれませんが、その中で満足度が上がってきてるというのは、印象としては持っています。各事業それぞれ性格は違いますが、実際、私どものほうで青少年関係の事業で言いますと、例えば出前講座を見ますと、本当にお子さんたちが生き生きとして授業を受けられて、活発に参加されているということで、子どもだけでなく、教職員からも高評価をいただいておりますし、そういう意味では非常によかったのかなと思っています。

○貴田子育て支援担当課長代理 子育てに関して言いますと、一番上のアウトカムのところで、子育て支援事業の利用者で満足していると答えた人の割合を85%以上の維持というのを掲げさせていただきまして、実際91.7%ということでクリアはさせていただいたんですが、実は、前年は93%、それよりも高い数字をいただいていたところが減ってしまったというところがありまして、みんなショックを受けているんですけども。なので、参加していただいて9割の方には喜んでいただいたとしても、やはり1割弱の方は、満足できないと思っておられる方がいらっしゃるというこ

とになりますので、そのところは、そういう方のご意見も、どこがだめでしたかみたいなことを聞きながら、そこを改善していきたいなと考えています。

また、子育ての相談窓口の認知度に関しましては75%以上で、去年は残念ながら74%だったんですが、今年度は83%ということで、かなり上がりましたので喜んでいます。この部分は、例えば子育てサロン等で、地域のほうでも、いろいろと困ったときには相談窓口として区役所があるよなど広報していただいたものが、皆さんにもちよっとずつ浸透していっていると考えておりますので、これは地道にこれからも進めていきたいと考えております。

以上です。

○西岡部会長 これだけの高い数字なので、結構難しいところもあると思います。僕自体も子育てサロンとか愛Loveこどもフェスタというのにずっと参加させてもらっていると、やはりマンネリ化というような形になってしまうというとらえ方をされるところはあるんですけども、これはなかなか今までの事業を変えるというのにまたかなりの努力と勇気というの也要ります。果たして、それを変えることがいいのかどうかいうのも考えてやっていかないといけないところもあると思うので、参加者の方の中で、この91%と93%という数字的に落ちたといったら落ちたんですけども、これだけの高維持だったらいいいところじゃないかなと思っております。

あと、何かありませんか。

○木本委員 いろいろありますけど、とりあえずはこの青少年カーニバルとか健全育成とか、いろいろと顔を出させてもらったりしましたけども、カーニバルは毎年かなり参加者も増えていきますし、盛大になってきているので、各地域からもいろいろ踊りなどを出したりとか、頑張ってるなというのはよく見ていますし、青少年健全育成の区民センターでやる区民大会は、室内ということもある、だからなんとなく地味やなという感じはあります。区も人権関連のイベントをしているでしょう。ちょっと毛色は違うんですけど、なんとなく一部似ているような感じがあったりとか、あと高校

軽音とか、中学生が出ているイベントがあるんですけど、もっと中学生が出演する機会があってもいいのではという気はあります。

子育て世代、保育園・幼稚園に行っている子というのは、やっぱり地域で聞いたら、出にくいというか、交わりにくいっていうお母さんはたくさんいるから、そういう人達をもっと、逆に新しいマンションができましたよ、越してきましたよ、環境いいから鶴見区に来ましたよ、でも子どもが小さいから外に出てなかなか交わる機会がない、それを地域が設けているけども、やっぱりなかなか思い切って飛び込んで行けないというのが結構あるから、いろんな告知で伝わってるとは思うんですけど、何かその辺がないような感じがあるのかなと思ったりとか、特に新しいマンションは町会に入っていないところが多いですよ。どうしても町会も、そういう場所へ行っても結局拒否されるじゃないけど、なかなか話を聞いてもらえないという部分もあったりで、結果的にひいて言えば町会が減るんですよ。一番肝になるところが減ってくるというのがあるから、そういうところをもっと出て行って取り込んでくれるような環境というかそういうのをやってあげたらいいのかなって。地域も限界がありますからね、いつもそういう議題が出ます。だから、そういうところがもっとできれば。

実は、僕の今住んでいるマンションでも、入ってきている世代も幼稚園・保育園児ぐらいの子が結構入っているんです。お母さんが保育園に連れて行って仕事行くとかそういうのばかり、イベントなどにはあまり参加しない感じ。そういう人たちにも会話できる場ってというのがあればと思います、小さい子には。中高生にはこういう感じでいい、小学生は小学生でそれなりに学校以外でいろんなこと考えてやってもらっているし、地域も一緒にやってるからこのままいけばいいかなというような、これぐらいです。

○西岡部会長 前川委員も以前、教師をされていたということで、高校生をもっと呼び込めみたいなこともあったと思うんですけどね。

○前川委員 一つは、僕、こういう文章を見ると、英語がたくさん出てくるんです

よね。例えばアウトカム、コンプライアンス、これどうしてかなというふうに思うんですけどね。例えばアウトカムって書いて、最初に括弧して日本語の意味を書いてあげるとか、コンプライアンスでも法令順守だというんですけど、でないと、私もこれ何でこんなところにアウトカムが出てくるかなというの、まずこれはどの文章を見ても、例えばホームページ等でも何でこんなところで日本文の中に英語を使うんやというのが非常に首をかしげているところがあるので、これは区役所もしくは大阪市でこういう言葉を使いなさいというのがあるのかなということなんですけども、でしたら、資料2の1ページの最初のところにアウトカム括弧何々を書いてあげていただけたらというのが、どういう状態をめざすのかということでもいいんですかね、この意味は。アウトカムというのは。

○杉本地域活動支援課担当係長 アウトカムは、こちらには括弧して書かせていただいているんですけど、どういう状態をめざすのかということです。

○前川委員 そういう意味なんですか。申しわけございません。

○田中こども・教育担当課長 直訳すればまた何かあるんかもしれません。一応意味するところはそういう意味で、これ、もともと自己評価といいますか、運営方針の様式そのものは、委員が今おっしゃいましたように、市が統一してつくってるものがあって、そのまま使っているんですけども、確かにわかりにくいところがあって、今ご覧いただいています資料2は、区のほうで少しわかりやすくということで落とし込んでいるんですけども、その辺ご指摘を頂戴したところは、またできる限り横文字だけじゃなしにわかりやすくするように心がけようとは思っています。

○前川委員 すみません。あとは、確かに木本委員もおっしゃったように、いろんな小学生、中学生、高校生を巻き込みながら、鶴見の魅力を発揮しようというのはわかるんですけども、前から思っているんですけど、例えば鶴見の高校生が軽音をやるというのも確かにいいと思います。中学生が英語スピーチコンテストに参加するのもいいと思うんですけども、彼らの考えみたいなのが、今年度ですかね、来年度に向け

て、どこかに聞けるような場があればなと思いますのは、実は私、地域で小さな幹事をさせてもらいまして、皆さん全員に声かけて1日旅行に行ったんです。行ったときに、何人ぐらい集まるかなと思って、17人集まったんですけども、全部諸口です。

17人集まって僕が一番年下やったんです。僕65歳です。年いった人たちに小僧扱いされて、あれせえこれせえって、そうすると若いのが何してるんやろなど。我々が中学生、高校生のときは、こんな大人になったらいいな、40代、50代、60代の人を見て、こんな大人になったらいいなという何か世代の格差みたいな感じがなかったような気がするんですね。我々が20代のときは30代の人、30代のときは40代の人、40代のときは50代の人というような感じでつながってきたような感じはするんですけども、ところが今、さて20代、30代、特に10代、今後また選挙権が18歳になるらしいですので、そうすると、彼ら若い世代が、さあ鶴見区、どんなふうにしたいねん、一言でも二言でもいいですけど、彼らが考えていることをどこかで聞けるような場があればな、それがこの区政会議じゃないわということなら話は別なんですけども、どこかで28年度のこども教育部会に入れていただけたらなというのが小さなお願いでございます。

以上でございます。

○田中こども・教育担当課長 前川委員、以前の部会的时候も、高校生の会議とかできないかのご提案いただいておりましたね。これは27年度振り返りですから済んだことなんですけども、28年度の運営方針は今出ているわけなんですけども、これからとしましたら、秋に29年度に向けての方針をまたつくっていくわけなんですけど、どういうふうなものかいろいろ難しいとは思いますが、高校生の会議となってきましたら、対象とか進める方向性とかいろいろ検討する必要があります。もちろんイベントにつきましてはそれぞれアンケートとかそういうことで頂戴はしており、そういうところにご意見なんかも来てますが、委員がおっしゃるのは広くですよ、もっと広く区政に対する意見とかそういうことをおっしゃっているんですかね。

○前川委員　そうですね、前もお話しましたけども、ラッキーなことに、ここの鶴見区には3校の公立高校がありますので、生徒会とかの子らに来てもらって、ざっくばらんにどうと、別にそれが鶴見区民でない高校生でも、これから背負っていかうとする子どもたちが、さあ我々を見て、大阪市を見て、鶴見区を見て、どう思っているのかなというのを聞けたらなというのが、今、小さな希望でございます。

○西岡部会長　今も課長のほうからもありましたが、そういうところも向けてというか、いろいろ考えてもらって、なかなか学校も、各校3校あってもそこによっていろんなあれもあると思うんで。

○田中こども・教育担当課長　もちろんおっしゃいましたように、区民だけじゃないですけども、在勤とか在学ということで言えば鶴見区にかかわっている方で。

○西岡部会長　鶴見区の子じゃなくても鶴見区に通っているっていうことで、そんな中でもまたいろんな意見もあるかもしれないということもね、そんなこともちょっと取り入れるような場ができればいいかなと。

○木本委員　中学生の英語スピーチの件ですが、これ基本、鶴見の子でわがまちってやっていますけど、別に高校に置きかえて、例えば区に住んでいる子だったらわがまちもいいやろうし、区外から来ている子だったら、鶴見を見てどう思うかっていうそういうものを、例えば青少年健全育成のときの何かでちょっと時間とって何人かしやべらしてあげるとか、高校生の主張やない、NHKじゃないですけど、そんな場面をつくってあげて一遍やってもいいと思いますし、逆に上の会議室を使って、座談会みたいな感じで、気楽な小一時間、そんな場を設けたら別にいいかなと思います。それを発展させていって、段階踏んだら、結構、今の高校生言うたらしゃべると思いますけどね。僕らの時より自己主張は絶対強いはずなんで、今の子は。そんなことを実施してみればどうかなと思います。

○西岡部会長　完全に形としてするとなったら大変なこともありますけど、ちょっと軽い気持ちで始めてみれば、だんだん発展していってそれが学校ともつながっていく

て、子どもたちが今、何考えているかというのも、私たちにとってもかなり生の情報としていいもの入ってくるかもしれない。

○真鍋委員 さっき前川委員が言われていましたが、ちょっとずれるんですけど、成人の日の記念の集いで、二十歳の誓いというテーマで3人ほどスピーチしてもらうんですけど、年齢がちょっと上になるんですけど、そういう場で委員が出席できるような形をとってもらい1回聞いてもらうのもどうかなと。それが一番近いのかなという、ちょっと二つほど年は上がるんですけどね。来賓で地域の方ばかりなんで、こういう区政会議の委員も席だけ設けていただければ。

○田中こども・教育担当課長 そうしたら様子も意見も聞けるし。

○真鍋委員 二十歳の誓いなどで十四、五名が舞台に上がるんで、ちょっと騒がしいというのもあるんですけど、年代によっていろいろあるんですけど。

○田中こども・教育担当課長 それも含めて今の実態ですよ。

○真鍋委員 一番近いんじゃないかなと思うんで、委員だけ入っていただければ、青少年指導員の方と話し合いしていったらいいんじゃないかなという。

○杉本地域活動支援課担当係長 昨年度は成人の集いの実行委員メンバーに事前に集まっていたいて、広報紙にも掲載したんですけど、鶴見ってどんなところというテーマで話をしてもらったんですけど、そういうイメージなんですよ。

○西岡部会長 寺田委員のほうから何か。

○寺田委員 私はいいです。

○西岡部会長 そしたら、宮田委員のほうから何か。

○宮田委員 今、英語スピーチコンテストの話も出てたんですけども、私はたまたま小学生の異文化交流の図書館のほうに参加させていただきました。2年生ぐらいから6年生までで、私が参加したときは、参加者が20名弱だったと思うんですけども、子どもたちも英語、今小学校でも入っておりますので、結構違和感なく、それはスピーチをするっていうんじゃなく、聞いて耳から入ってくる英語でどういうふうに返し

ていくかいうのをやっているんですね。多分そういうのが徐々に低年齢から上に上がってくれば、今言われているように中学であろうが高校であろうがもっと自分の意見も言えるだろうし、やはりこれからは、先ほどからも言われてますように、若い子どもたちがいかに鶴見区を、自分がここにいてる間、どういうふうにやっていきたいじゃないけど、住みよい、住んでよかったと思われるような鶴見区をめざしておられるのならば、やはりそこをみんなが小さいときから植えつけるじゃなく、自主的な考えで、自分の考えを持って育っていくような意見を言える場所があれば、ちょっとは違うのかなと思いますので、この中では小学生は異文化交流でそういう場所があって、中学は英語のスピーチがあって、今言われてましたように高校生はそれがない。高校生はいろんなところから来られているところがあるんですけども、やっぱりそれに対しては、どこかでそういう意見が聞けるような場を持っていただけであればありがたいかなと思っております。

○西岡部会長 ありがとうございます。松原委員のほうから何か。

○松原委員 本日は遅れてきて申しわけございませんでした。

じゃあ2点、先に質問させていただきたいんですけども、4ページにありますような、例えば青少年健全育成の取組みを区民協働により進められていると感じている区民の割合とか、その下にもいろいろありますけれども、この何%っていうのは参加された方からの分ということになる。

○杉本地域活動支援課担当係長 まず一番上の分は区民の割合です。これは区民アンケートを年に4回実施している分の1回で、区民の方に送らせてもらっているものです。それから下のほうは参加者の割合になっています。実際にそのイベントに来られた方なので、数値的には当然ちょっと高いかなというふうに思います。

○松原委員 わかりました。参加されている方はやはり何か興味があったり、意識が高いとなると数字も上がると思うんです。区政委員をさせていただくようになって初めて、こういったイベントやってたんだとか、実は知ることもあったんですけれ

ども、子どもが、今は高校生ですが、中学校に通ってるときにも、この中学生の英語スピーチコンテストっていうのは、この場では知りましたけれども、学校経由で何かっていうのは特に私は知る機会がなかったかと思うんです。もしかしたら配付資料などがあったのかもしれませんが、子どもが提出せずに終わってしまったのかもしれないです。ほかの小学生や中学生の分でも思うんですけど、大阪市立何々小学校とか中学校っていう形のところであれば、もっと学校巻き込み型にして、多くの方に周知できるようにしたらいいのかなと。

あと配付資料などは、保護者の方に見せない子が結構多いので、最近はホームページに掲載している学校も多いと思うんですね。学校のホームページを閲覧しているご家庭も大分増えてきていると思いますので、何かそういうところでうまく連携じゃないんですけども、できたらいいのかなという感じはいたしました。

もう一つなんですけども、昨年PTAの役員をされていて、子どもたちとPTAとでお話し合いをする機会を結構持つ場があったんですけども、子どもたちは学校でこういうことをしていきたいとかそういったことをすごく、生徒会だったんですけども、具体的な意見を出してくれたり、また保護者に対しても希望であったり、やってくれてこういうことがうれしかったとか、そういったことを具体的にお話聞く場が結構多かったんです。ですので、各学校の代表が集まって鶴見区をどうしていきたいのか、違う中学校の子たちとの交わりとかもとっても大切だと思いますので、もっともっと学校やPTAを巻き込んだ形で何か子どもたちの育成とかができたらいいんじゃないかなと、ちょっと今お話を伺っていて思いました。

○田中こども・教育担当課長 ありがとうございます。ちょっと補足説明させていただきますと、いろいろ区のホームページで事業は紹介しているんですけど、なかなか学校のホームページでどこまで載っているかというのはちょっとあります。この中学校のスピーチコンテストに関しましては、実は27年度の単発のイベントで、それまではありませんでしたので、多分ご覧になってなかったんだと思います。

あとは、これに関しましては学校のほうで事業の案内、スピーチコンテストしますという案内は配布いただいたんですけども、そこだけでしたので、実は、これ正直申しまして、またご意見も頂戴したいんですけども、我々も学校も巻き込んでやろうということで、例えば学校のほうで先生方に参加される生徒を推薦いただくとか、当然スピーチコンテストやろうと思えば練習が要りますから、その練習もお願いしようかといろんなこと考えていたんですけど、実際、中学校忙しいと、特に受験とかいろんなもろもろの試験で忙しいということで、なかなか学校としても難しいということがありまして、これに関しては、今年度は我々のほうで一応公募の形で集めて、審査をして通った方について、いざスピーチするときには我々のほうで英語の堪能な方を募集しまして、実際に来てもらってやってきたという経過があります。おっしゃいますように、なかなか学校を十分に巻き込めてなかったというところはあるんですが。

それは時期の問題もありまして、スピーチコンテストは下半期でやりましたので、こんな時期言われても難しいとか言われまして、それは我々の反省でもありまして、そんなこともありまして、今委員もおっしゃいましたように、学校巻き込んでやっていくのは非常に大事なことで、それはまた今後の事業に生かしていかないとだめだと思っています。

○西岡部会長　確かに先生、忙しいと思います。実態としてすごくいろんなことの対応というのもあると思いますが、今おっしゃっていたように、27年の事業がおくられてしまったというので、それに対して中学校の場合は受験などもあるのでなかなか対応が難しかったと思うんですけど、こういうことをまた企画として出てくるようなことがあれば、企画段階でもいいので、まず学校へ知らせてあげれば、一応大体こんなもん入ってくるかもしれないというような形はとってもらえるんじゃないかと思います。そしたら子どもたちの参加もだんだん多くなるというか、あの人出ててんな、次は俺が出たいとか、やはり子どもたちはそんなところがあるので、そんなこともうまいこと利用じゃないけどもしていったら、今の子どもはかなりそういうところに関

して出て行くのが平気な時代になっているんで、その辺うまいことやってもらったらいいかなと思います。

○木本委員 英語スピーチコンテスト、学校にそういう案内が入って子どもが持って帰ってきてますよね。結構、案内を親に渡してくれたら親が子どもにも言うので、まず親が子どもをたきつけるように持っていったほうがいいと思うんです。逆に先生が言うたら押しつけでしょう。だからやはり案内を学校に出してもらって、ちゃんと親に渡せっていう流れをつくった中で、どこかで学校にちょっとフォローしてもらって形に持っていったらと思います。

○田中こども・教育担当課長 もちろん案内は学校を通じて配布はさせてもらったんですけども。

○真鍋委員 結構学校によって偏りはないんですか。

○田中こども・教育担当課長 たまたま一次審査のときに、140名って書いてますけど、これは正直言って、茨田中学校のほうで結構先生が頑張ってくれて、たくさん出してもらったということはあるんですね。あとは、さっき言いましたように公募ですから、一応満遍なく来てますけど、茨田中学校が多かったのは確かなんです、結果的には。

○西岡部会長 その辺もあると思うんです、実際、こんな言い方怒られるかもしれませんが、学校によって、先生によって、やはり子どもたちにそういう場を提供させてあげようという先生もいてると、さっき言ってはるように、忙しいんや、今からこんなスケジュールは組めませんと、そういう先生もまだまだいてるのは確かですが、その辺もだんだん世の中変わっているように変わっていくと思いますんで、ちょっとずつでもそういう形とってあげたら、子どもたちに若いときからいろんな経験することというのは大人になって一番財産になると思うんでね、その辺また区を挙げてというか、行政のほうでお願いしたいと思います。

○松原委員 先ほど中学生って言ってましたけど、小学生にしても中学生にしても、

周知の案内用紙、何かこういった文章とかじゃなくって、子ども目線で、こういうのやるよ、集まれみたいな、少し砕けた感じのもののほうが、同じ学校で配っても目立つと思うんですよね。ふだん学校で文書もらって、ちょっとふだんと違うものだと、これ出てみようかなとか、保護者に見せようかなという気持ちになる。これも去年、たまたま中学校でイベントやったときに、いつもと違う形で配布したんですけど、それも子どもたちに絵を描いてもらったりとかもしてやったんですけど、やはりたくさんの方が集まってくれて、ちょっと趣向というか、変えると違うんだなというのがわかりましたので、区役所ってこういうことするんだってびっくりされるような感じで何かされたらいいのかなと思います。

○田中こども・教育担当課長 確かにかたい文章だけではね、いっぱい刷りもの持って帰ってきはるから目立たないのもあると思います。そういう子ども目線でやるとなると学校の協力を得ないとなかなか子どもたちに描いてもらえないし、やはり学校との協力なんでしょうね、そこはね。

○杉本地域活動支援課担当係長 チラシについても、一般的に配布する用と、学校でまいてもらうのとちょっと分けたりしてやりたいなと思います。

○萩副区長 ちょうど広報紙を生徒向けにつくって、国から優秀賞をもらったんですね。そんなこともできるんで、ちょっと工夫したいなと思ってます。

○宮田委員 今言われたように、まず親に目がいかないというのは紙の色にもよると思うんです。絶対です。だから、カラー用紙を使うと、まざってたって何かなって親も目線が行くと思います。だから私がやってるところは絶対カラー用紙を使うんです。中身の文章がどういう文章であつたって、色が違うということは安易にごみに捨てれないんです。せめて紙ぐらい予算があれば、ちょっとお願いしてもらったらまた違うかなというのもあるんですね。そしたら徐々に今言われているように子どもたちにそういう、萩副区長も言われているように、ちょっと早い目に、すぐには無理だと思うんですよ、2年ぐらい先には、そしたら子どもたちにそういう案内、毎年これを

するんやで、この時期にはっていうのが定着してくると思うんです。そうすると親もわかってきますし。親が一番見るのがこれですわね、広報つるみ。今、一番これ個配で紙媒体やからすごく見てる人が多いと思うんです。こういうところでちょっと書いてあったりすると、学校からもまたもらってきてたり、今言うように。一つ気になってたのが、対象中学生って書いてるんですけども、年齢的に言うたら1年、2年、3年の区別なしですか。

○田中こども・教育担当課長 このコンテストですか。

○宮田委員 はい。

○田中こども・教育担当課長 一応、公募の形にしましたので、募集しましたので。

○宮田委員 それによって、英語好きな方とか、いろんなことされている方は1年生であったってそれだけのものをもってると思うんですけどね、これで一次書類審査というのも書いてあるので、何を基準にどうされたんかなってちょっと聞きたいかなと思ったんです。

○田中こども・教育担当課長 一次のほうは、わがまち鶴見というテーマで、自分の鶴見区に対する思いを日本語で書いてもらいまして、その中で、例えば書いてる観点とか、表現の方法とか、幾つか視点を設けた中で選んだわけですけど。そこで文章の表現の仕方とか、どういう視点から見てるのかとか、そういうところで差がつく、よかった分についてはやはりこう上がってきてると。その中で、次はその通った方に英語に訳して発表してもらおうという、そういう手順で今回27年度は実施しました。

○宮田委員 ちょっとそこが気になったんで、どういう文章でやってるんかなと、全て初めから英語なんかなと思ったたり。

○田中こども・教育担当課長 最初は日本語でやって、やっぱり結構、視点としましては、鶴見に対する思いとしましたら、鶴見緑地とか幾つか大体視点が出てきますね。子どもが行ってみたいところとか、イオンとかそういうのが特徴だとか、あと温水施設もありますし、そういうところを書いてくる方もおりましたし、そういう区の

中の自分が好きなのところとか、自慢できるところとかそんなことを書いてはったというのが多いですね。

○杉本地域活動支援課担当係長 一次も二次も審査基準を設けまして、また審査員は外部の方に来ていただいてということで実施しました。ちなみに、中学1年生の子が優勝しました。

○宮田委員 ありがとうございます。

○西岡部会長 あとは皆さん何かございませんか。何もないようですので、また先ほど出たいろいろ話、今から鶴見の若い子どもたち、地域の若い世代だと言われてるんで、子どもたちにもっと出てもらうような形でいろいろと考えていただきたいと思いますので、また区役所のほうも大変だと思いますけども、やっぱり機会を持ってもらうという、その辺が一番大事になってくることもあるので、その辺も考えて、同じことばかりやっててもあれなんですけど、それがだんだん発展というか、いい結果になっていくんじゃないかと。これは僕思うんですが、子どもたちのことなんで、目に見えてすぐによくなることはないと思うんですけども、何年後にはやはりこれがよかったんやなというような形で持っていつてもらいたいと思いますので、そのあたりよろしくお願いします。

それでは、本日予定されている議題はこれで全て終了ということになってきました。また、皆さん方には活発なご意見ありがとうございました。この後も各部会と全体会といろんなことがありますんで、その中でこういった意見いろいろやっていただいたら、先ほども申しましたように鶴見区の発展といいますか、よくなっていくような意見がどんどん出てくると思いますし、また、よその部会からも私たちいろんなこと聞くこともあると思うんで、そういう形でまた地域とかに持って帰って、いろんな形でよくなっていくような形にしていきたいと思いますので、どうも本日はありがとうございました。

○杉本地域活動支援課担当係長 今日は多くの貴重なご意見をいただきまして、あ

りがとうございました。事務連絡としまして、先ほど少し説明したことで繰り返になります。こちらの横長の委員評価シートについて、もう一度だけ説明させていただきます。

具体的取組について、わかる範囲で結構ですので評価をつけていただき、提出をお願いしたいということです。提出期限は6月末までです。メールを登録いただいている方につきましては、この資料を明日、メールでお送りさせていただきます。メール登録されていない方につきましては、お手数ですが、6月30日までに4階の総務課まで紙でご提出をお願いいたします。

事務局からは以上です。

○真鍋委員 時間は5時までですか。

○杉本地域活動支援課担当係長 5時半までです。

○田中こども・教育担当課長 もし難しいようでしたら宿直員まで。

○杉本地域活動支援課担当係長 宿直員に預けていただければ大丈夫です。

○宮田委員 宿直員は何時ぐらいまでいますか。

○杉本地域活動支援課担当係長 ずっといます。

○西岡部会長 ずっと一晩中。

○寺田委員 6時半まで仕事なんで、今日はちょっと早退させてもらって来させていただきます。

○杉本地域活動支援課担当係長 宿直員に預ける際、4階の総務課までということ言っていただければと思います。繰り返になります。名前の記載は一枚目だけで結構です。お手数おかけしますが、よろしくお願いします。

○西岡部会長 それでは、これで。ありがとうございました。

閉会 20時24分